

## 授業科目 精神障害作業療法評価法演習

【担当教員名】 岡村 太郎	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30
【<概要>又は<一般目標：G I O>】				
精神障害に対する作業療法の評価を実施するために、主に方法と実施を体験し、必要となる基礎的な知識・技能・態度を身につける				
【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】				
<p>1検査について症状評価、社会機能評価などについて数種類施行でき活用方法について述べることができる</p> <p>2観察について構造や形態について述べることができ、リスト等を使用し患者を想定し健常者に観察することができる</p> <p>3面接について構造や形態について述べることができ、患者を想定し健常者に面接することができる</p> <p>4構成的作業面接と投影的作業面接について特性や手順が述べられ、患者を想定し健常者に施行でき、その活用方法について述べができる</p> <p>5提示した症例から、カンファレンスチャートを使用しその障害構造や問題点を明確にし焦点化まで記述できる。</p> <p>6精神障害に対する作業療法の評価項目を書式にまとめられ評価用紙として提出できる</p>				
回数	授業計画又は学習の主題			SBO 番号
1～3	検査について症状評価、社会機能評価についてそれぞれ数種類施行でき活用方法について述べることができる			以下すべて、講義と演習 担当教員岡村
4～6	観察について構造や形態について述べることができ、ウォッチングリスト等を使用し模擬的に観察することができる A. 観察の構造についてモデルを図示し説明できる B. 観察の形態について述べることができる C. ノンバーバルによる観察の種類と内容について説明できる D. 日常生活能力の観察項目に沿って模擬対象者の能力を記述できる E. 職業関連能力の観察の項目についてあげられ模擬対象者の能力を記述できる F. 社会生活能力の観察の項目についてあげられ模擬対象者の能力を記述できる			1
7	面接について構造や形態について述べることができ、模擬的に面接することができる			2
8～11	構成的作業面接と投影的作業面接について特性や手順が述べられ、患者を想定し健常者に施行でき、その活用方法について述べが出来る			3
12～13	提示した症例から実際の評価方法と情報の収集について述べられる。また、提示した症例からカンファレンスチャートを使用しその障害構造や問題点を明確にし焦点化まで記述できる			4
14	評価項目が列記してある評価チャートを作成できる			5
【使用図書】				
教科書	<書名> 精神障害と作業療法 心理査定プラクティス	<著者名> 山根寛 岡堂哲雄：編	<発行所> 三輪書店 至文堂	<発行年・価格・その他> 2000 1998
参考書	作業療法実践の仕組み	矢谷令子・福田恵美子	同医書出版	2001
その他の資料	諸検査チャート（B P R S等）配布			
【評価方法】 出席・レポートにより評価		【履修上の留意点】		